

あらえびす賞

アフリカンシンフォニー

赤石小学校 5年 伊藤 仁香

わたしは、学校の音楽の時間に、シヨスタコービチ作曲の「祝典序曲」と、ヴァン・マッコイ作曲の「アフリカンシンフォニー」という曲を聴きました。「祝典序曲」はオーケストラ、「アフリカンシンフォニー」は吹奏楽です。オーケストラは、管楽器と打楽器と弦楽器で演奏し、吹奏楽は、管楽器と打楽器で演奏するそうです。

二つの曲を聞き比べてみると、オーケストラは、音に広がりがあり、厚みのある響きが大きな風景を感じさせてくれました。吹奏楽は、管楽器や打楽器の響きが重なりあって、明るくてチームワークを感じさせてくれました。鑑賞をしているときに、クラスの子が、

「この曲、甲子園の高校野球の応援で聴いたことがあるよ。」  
と語っていました。

二つの曲を聞き比べて、わたしは「アフリカンシンフォニー」がとても印象に残りました。いろいろな想像をしながら、何度も何度も聴きました。

まず、わたしの頭の中に浮かんだのは、たくさん動物たちが主人公の周りに集まってくる様子です。わけは、最初はリズムが遅いのですが、だんだんと速くなり、動物たちが次々と集まっているような感じがしたからです。ライオン・キングがいるような、広い草原を想像しました。

次に想像したのは、森の中です。くり返しのリズムがあって、主人公が森の中にどんどん歩いて行くような感じがしました。

また、楽器の音が重なり合うところでは、ジャングルの中で動物たちが鳴いている感じがしました。低い音はゾウが仲間と話している場面、高い音は馬と鳥と一緒に遊んでいる場面を思いうかべました。そして、音が強くなるところは主人公が森の中を走っているところ、弱くなるところは、海を目指してゆっくりに歩いているところを想像しました。

最後の方は、たくさん楽器の音が重なって、音の響きも強くなりました。わたしは、たくさん動物たちが主人公の周りに集まっている場面を思いう

かべました。そして、くり返されるメロディーで、何かに挑戦しているような感じがして、勇気がわいてきました。

わたしは、この曲を何度も聴くうちに手や足でリズムを取っていました。「アフリカンシンフォニー」は大人でも子どもでも楽しめる曲だと思います。それは、いろいろな楽器やリズム、音の大小で、アフリカの大自然を想像させてくれるからです。自然の偉大さや、そこに生きる動物たちの力強さ、仲間の大切さを感じさせてくれました。

この曲を聴けば、きっと、誰でもぼっけんの旅に行きたくなると思います。

曲名 アフリカンシンフォニー  
作曲 ヴァン・マッコイ

## 審査員講評

あらえびす賞感想文について

動物たちがジャングルで楽しく遊んだり、走りまわったりする様子を楽器の音色、音の重なり、旋律、強弱から想像しているととてもすばらしかったです。

「曲を聴いていると勇気がわいてきた」という感想は、音楽のすばらしさを改めて感じさせてくれました。

## 教育長賞

### 復興への願いと「木星」

赤石小学校 5年 川原 優衣果

平成十六年十月二十三日、新潟県中越地域を、大きな地震がおそいました。この大地震により、多くの長岡の人々が住む場所や働く場所を失い、絶望の中にいました。被害を受けた長岡を活気のある町に戻すため、震災復興祈願花火「フェニックス」を構想し、提案した人たちがいます。私は、このできごとを道徳の学習で知りました。

この「フェニックス」のお話の中に、平原綾香さんが出てきます。平原さんは、「ジュピター」という曲を、長岡の人たちのために提供しました。「ジュピター」というのは、どんな曲なのだろう。「フェニックス」を構想した人々は、どうしてこの曲を必要としたのだろうと思いました。この授業のあった次の日、平原さんの歌う「ジュピター」という曲を聞くことができました。「ジュピター」の歌詞を見て、確かに「フェニックス」は、この曲が必要だったのだと思いました。私は「ジュピター」から、震災で悲しんでいる人たちに立ち直ってほしいという思いを感じました。きっと長岡の人たちも、「私たちは、だれも一人じゃない。」と感じてくれたように思います。また、美しいメロディーは、長岡の人々の心をいやしてくれたことでしょうか。

この「ジュピター」の作曲者は、ホルストという人でした。音楽の時間、ホルストの管弦楽組曲「惑星」から、「木星」を聞くことができました。

「木星」は、オーケストラによる演奏でした。音の強弱がすごく感じられ、ゆっくろとしたメロディーやはずむようなリズムなど、いくつかの部分が組み合わさって構成されていました。そして、「ジュピター」に出てくる旋律が聞こえてくると、目の前に長岡の花火が浮かんでくるような気がしました。オーケストラの演奏が終わってから、その旋律が耳に残り、思わずハミングをしてしまいました。

曲を聞いた後、ホルスト作曲の「木星」と震災復興祈願花火「フェニックス」には、共通点があるように思いました。それは、どちらも前向きで、それぞれの目標に向かっていくような力強さをもっていっていることです。

「フェニックス」の構想は、長岡の人々に簡単には受け入れてもらえませんでした。大きな被害を受けた直後だったので、花火なんかで復興が進むわけがないと思われてもしかたがなかったのです。しかし、花火を打ち上げることで、長岡を復興していこうという目標を、見失うことはありませんでした。「木星」の旋律には、「フェニックス」と同じ力強さと、人々を包みこむような優しさがあります。

いつか機会があったら、ホルスト作曲の管弦楽組曲「惑星」を全て聞いてみたいです。きっと、それぞれの星のイメージに合った曲が作られていると思います。

曲名 組曲「惑星」より「木星」  
作曲 ホルスト

## 優秀賞

### うちゅうに行ける

愛媛大学教育学部附属小学校 2年 若狭 早

お星さまがいっぱいのうちゅうは、ぼくのがれです。今から百年いじよう前、同じあこがれの気もちを音楽にした人がいました。それは、イギリスのホルストさんです。

ホルストさんの「木星」をきいている時、ぼくのお母さんはごきげんになります。小学生の時にこの曲を「がっそう」「してから、大すきになったのだそうです。

「早ちゃんがおなかの中にいた時、よくきいていたんだよ。」  
と、お母さんは言います。それはおぼえていないのですが、ぼくも「木星」はすてきな曲だな、と思います。

オーケストラのふかいひびきは、うちゅうにいるみたいです。ゆったりと  
もり上がりながら、しんこきゅうする時がやって来ます。

「あ、そろそろ来るよ。」

ぼくは耳をすませます。お母さんが「木星」だい四しゆだいのメロディを口  
ずさむのです。

「この曲はホルンが大かつやくするからね。」  
お母さんのことばで、ぼくはきょ年、コンサートでホルンを見たことを思い出  
しました。

えひめ大学で行われた、親子で楽しむふれあいコンサート。大学生のお兄  
さんお姉さんに、がっきのしくみを教えてもらったり、すてきなえんそうを  
きかせてもらったりしました。ホルンは金色でピカピカ、音の出るところが  
フワッと広がっていました。えんそうがお休みの間に水ぬきをして、いつで  
もいい音が出せるようにすることを知りました。

それぞれのがっきを大切に、たくさんの人をそろえ、音楽はかん  
せいします。ぼくはコンサートに行って、音楽のすいじょうを見つけてい  
くことができました。

うちゅうはまだ、たびすいじょうは遠くです。ぼくの願のすいじょうにたのびます。



でも、ホルストさんの音楽があれば頭の中でうちゅうに行けるのです。音楽は、とてもじゅうです。

作曲名

作曲  
ホルスト  
組曲「惑星」より「木星」